窓ぎわのトットちゃんから考える

多様性の認め合い

Myプロフィール

・中学3年生
・2年生～　図書委員会に所属
・趣味は読書、美味しいものを食べること
・好きな言葉は「事実と真実は違う」（流浪の月より）

小学6年生の頃に金子先生の出前授業を受ける
↓
外出自粛中に出された、学校からの宿題でSDGsについて勉強スタート
↓
学校でチラシを見つけ、冬休みに「伝え隊、学び隊、語り隊」参加
↓
月2回の学習会にも参加するようになる

～あらすじ～

著者の黒柳徹子さんの小学生時代のお話で舞台は自身が通った
小学校『トモエ学園』
活発過ぎて学校を退学になってしまった後、小林宗作校長先生
と出会ったことをきっかけに、トットちゃんがのびのびと成長
していく様子がかかれています。

ドラマにも！！

小林宗作校長先生の生徒への
思いや考え方、
そのもとで成長していく
生徒たちの行動が
すごくいいな～と思ったので
紹介します。

トモエ学園ではお弁当をみんなで丸くなってたべる。
↓
円の中心で順番に何かを話す
↓
話は何にもない！という男の子
↓
（朝何をした？）　えーと、朝起きた。
↓
あの子に、話があった！
とみんなは、とてもうれしくなった。

些細な事でも年齢関係なくみんなで喜び合える関係

アメリカからの転校生
↓
子どもたちが進んでいろいろ教える
↓
転校生も英語を教えたり、きれいな絵本を持ってくる
↓
お互いが仲を深める

仲良し・ともだちに国籍も文化の違いも関係ない！！

プール水着なし！（もちろん着てもいい）
↓
男の子と女の子が、おたがいの体のちがいを
へんなふうに詮索するのは、よくないことだ。

自分の体を無理に、ほかの人から、かくそうとするのは、自然じゃない。

どんな体も美しいのだ。
↓
ハンディキャップを持った子も元気な子も一緒に遊ぶことで、
羞恥心をとりのぞき、劣等意識を持たさない

「自分とはちがう」という意識を小さいころから持たせない授業環境

授業は1日にやらなければいけない内容を黒板に書き、
子どもが自分で選んで好きなのからやる
↓
わからないところは自分で先生に聞きに行ったり、
休み時間に図書室や外に調べたり確かめたりしに行く
↓
みんなが早く終われば、外へおさんぽ!!
↓
先生が花の名前をおしえたりするのではなく、
それぞれが知っている知識を話したり、みんなで調べてみたりする

自分ができることを自分で見つける

教わるだけでは終わらない授業

トモエ学園の子はそれぞれ「自分の木」を持っているが、
小児麻痺のある泰明ちゃんは登れないから持っていなかった
↓
（トットちゃん）上の景色を見せてあげたい！！
↓
でも、大人に言ったら反対されちゃうかも．．．自分たちで頑張ろう！
↓
2人がお互いがいを信じあって、脚立の上から木の上に無事に乗り移る
↓
２人で喜びやうれしさを感じながら
泰明ちゃんが当時はなかったテレビのことを教えてあげる

子どもがお互いを信じる力、成し遂げたいことへ向ける強さ

運動会はこいのぼりの中をくぐったり、階段ダッシュなど
↓
誰かの家族を探し出すなど、観客も一緒に行う競技
↓
ハンディキャップのある子が自然と有利になる競技にすることで
一等の喜びを覚え、その自信を忘れないでほしいという願い

運動会のごほうびは野菜
（しかも色んな名目の賞があり、みんながもらえるようになってる）
↓
自分の力で手にいれたもので家族を喜ばすうれしさを知ってほしい
↓
その野菜を使った晩ご飯を食べながら、
家族で楽しく、運動会のことを話してほしい

学校の校庭には様々な植物　　飯盒炊飯や臨海教室など

↓

自然との共存

教室は古くなってもう使えない電車を利用

↓

ごみを減らす

お弁当は海のものと山のもの（わからないものはクイズ！）

↓

食への理解を深め、好き嫌い・フードロス↘

「窓ぎわのトットちゃん」は戦前のお話です。
SDGｓができる前から、トモエ学園では自然に多様性が認め合える関係が出来ていて、ステキだな～と私は思いました。

学校施設の完全バリアフリー化や
少人数授業などの
分けられているからこそ、
できていることも…

SDGsの本を読もうとしなくても、学べることはたくさんある！！

難しく考えず、日常的なことから考え・ふれることが
自分から学ぶきっかけになる！！

最後まで聴いてくださり
ありがとうございました